

2017年12月期
第2四半期 累計期間
決算説明会資料

TIMELESS WORK.

ほんとうにいいものをつくろう。

SANYO

株式会社 三陽商会

2017年7月28日



TIMELESS WORK.

ほんとうにいいものをつくろう。

あたらしい服をつくるために

あたらしい道具からつくる。

すべてはディテールからできているから。

袖を通したときのあのよろこびをつくるために。

街にでたときのあのうれしさをつくるために。

それはSANYOの70年が大切にしてきたもの。

それはSANYOのこれからが忘れてはいけないもの。

たしかなものは、優しい。

優しいものは、愛おしい。

愛おしいものは、うれしい。

たとえ遠回りでも、

私たちはそれを。

SANYO

I. 2017年12月期 第2四半期 累計期間 業績報告 (P4~8)

- (1) 月別前売前年比推移(単体)
- (2) 損益計算書(連結)
- (3) 販管費実績(連結)
- (4) 貸借対照表(連結)

II. 2017年下期 事業計画(単体) (P9~12)

- (1) 販路別前売計画
- (2) 基幹ブランド前売計画
- (3) 販路別売場数計画

III. 2017年下期 CSR活動 (P13~15)

- (1) 環境活動
- (2) 社会貢献活動

I . 2017年12月期 第2四半期累計期間 業績報告

I. 2017年12月期 第2四半期累計期間 業績報告

TIMELESS WORK.

SANYO

(1) 月別前売前年比推移(単体・店頭販売ベース)

月別前年比

2016年

単位: %

	1月	2月	3月	第1Q	4月	5月	6月	第2Q	上期計	7月	8月	9月	第3Q	10月	11月	12月	第4Q	下期計	年間計
注(1) 全社計	68	55	59	61	60	60	59	60	61	82	72	77	78	88	85	86	86	83	70
既存対比	95	96	95	95	99	95	95	96	96	105	92	90	96	100	98	98	99	98	97
紳士服	71	56	61	63	61	59	56	59	61	78	69	72	73	86	82	84	84	80	69
婦人服	67	56	60	62	61	63	64	62	62	86	76	80	82	90	89	89	89	86	72
その他	5	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
EC通販	123	146	125	130	133	124	142	129	130	122	153	148	138	191	141	143	156	148	139
注(2) 全国百貨店 衣料品計	93	95	93	93	94	92	94	93	93	98	89	91	93	93	97	96	95	94	94

2017年

	1月	2月	3月	第1Q	4月	5月	6月	第2Q	上期計	7月	8月	9月	第3Q	10月	11月	12月	第4Q	下期計	年間計
注(1) 全社計	100	87	86	92	91	88	98	92	92										
既存対比	110	93	93	100	99	95	105	99	100										
紳士服	95	86	81	88	87	83	89	86	87										
婦人服	105	88	88	95	93	92	106	96	95										
EC通販	132	118	134	129	128	134	115	125	127										
注(2) 全国百貨店 衣料品計	97	95	95	95	98	96	99	97	96										

注(1) 展開終了ブランド、新規ブランドを除く前年対比が可能な事業

注(2) 日本百貨店協会 発表数字より(店舗数調整前前年比を記載)

トピックス

- 第1四半期: 紳士、婦人ともに「ウールコート」などの防寒衣料が稼働し、前年対比が可能な既存事業(展開終了ブランド、新規ブランドを除く)店頭販売実績は前年比100%となりました。但し、2月をもって展開を終了した複数ブランドの売上減が影響し、全社計では前年比92%となりました。
- 第2四半期: 気温上昇に伴う春物衣料の好調推移、紳士服におけるビジネス需要の回復傾向による「ジャケット」の稼働、婦人服でのトレンドを反映したシャツ・ブラウスを中心としたカジュアル衣料の好調により、既存事業計で前年比99%となりました。全社計においては展開終了ブランドの影響により前年比92%となりました。

EC販路においてはiStoreを中心に引き続き好調に推移し、上期計で前年比127%となりました。

(2) 損益計算書(連結)

売上高及び利益額

単位: 百万円

	上期					下期					年間(通期)				
	16年 実績	17年 計画	17年 実績	増減額/率		16年 実績	17年 計画	17年 修正	増減額/率		16年 実績	17年 計画	17年 修正	増減額/率	
				対前年	対計画				対前年	対計画				対前年	対計画
売上高	34,140	32,000	31,891	▲ 2,248	▲ 108	33,471	31,000	30,609	▲ 2,862	▲ 391	67,611	63,000	62,500	▲ 5,111	▲ 500
売上総利益	13,586	14,400	14,244	657	▲ 155	14,644	14,600	14,456	▲ 188	▲ 144	28,230	29,000	28,700	470	▲ 300
利益率	39.8%	45.0%	44.7%	4.9%	-0.3%	43.8%	47.1%	47.2%	3.4%	0.1%	41.8%	46.0%	45.9%	4.2%	-0.1%
販管費	19,399	16,900	15,870	▲ 3,528	▲ 1,029	17,261	15,100	15,330	▲ 1,931	230	36,660	32,000	31,200	▲ 5,460	▲ 800
販管费率	56.8%	52.8%	49.8%	-7.1%	-3.0%	51.6%	48.7%	50.1%	-1.5%	1.4%	54.2%	50.8%	49.9%	-4.3%	-0.9%
営業利益	▲ 5,812	▲ 2,500	▲ 1,626	4,185	873	▲ 2,618	▲ 500	▲ 874	1,744	▲ 374	▲ 8,430	▲ 3,000	▲ 2,500	5,930	500
利益率	-17.0%	-7.8%	-5.1%	11.9%	2.7%	-7.8%	-1.6%	-2.9%	5.0%	-1.2%	-12.5%	-4.8%	-4.0%	8.5%	0.8%
経常利益	▲ 5,763	▲ 2,400	▲ 1,709	4,053	690	▲ 2,433	▲ 400	▲ 791	1,642	▲ 391	▲ 8,196	▲ 2,800	▲ 2,500	5,696	300
利益率	-16.9%	-7.5%	-5.4%	11.5%	2.1%	-7.3%	-1.3%	-2.6%	4.7%	-1.3%	-12.1%	-4.4%	-4.0%	8.1%	0.4%
純利益	▲ 5,488	▲ 600	▲ 211	5,277	388	▲ 5,878	▲ 800	▲ 1,089	4,789	▲ 289	▲ 11,366	▲ 1,400	▲ 1,300	10,066	100
利益率	-16.1%	-1.9%	-0.7%	15.4%	1.2%	-17.6%	-2.6%	-3.6%	14.0%	-1.0%	-16.8%	-2.2%	-2.1%	14.7%	0.1%

(注) 年間の17年修正は上期実績と下期修正の合算値

トピックス

- 上期の売上高及び売上総利益はほぼ計画通りとなりました。
- 事業構造改革を進めたことにより、上期は販管費を大幅に削減し、営業損失は▲16億2千6百万円となりました。
- 下期については、夏物マークダウンの前倒しの影響もあり、売上高、売上総利益共に微減となる予定です。また、販管費についてはEコマースや売場への追加投資等により若干の増額を見込んでいます。
- 年間(通期)については、売上高及び売上総利益が計画に対して若干減少するものの、販管費の削減により営業損失は計画から改善し、▲25億円となる見込みです。

(3) 販管費実績(連結)

販管費

単位: 百万円

	上期		
	16年実績	17年実績	対前年増減額
売上高(連結)	34,140	31,891	▲ 2,248
販管費計	19,399	15,870	▲ 3,528
給料手当	9,806	8,134	▲ 1,671
広告宣伝費	1,790	1,059	▲ 731
減価償却費	409	296	▲ 113
その他	7,392	6,381	▲ 1,011

トピックス

- ・ 給料手当は、昨年12月に実施した希望退職による従業員の減少と、中止ブランド及び不採算売場の撤退による店頭販売スタッフの減少により前年から16億7千1百万円の減少となりました。
- ・ 広告宣伝費はブランドごとに見直しを行い、7億3千1百万円削減しました。
- ・ その他販管費全般は事業構造改革を徹底することにより、10億1千1百万円削減しました。

(4) 貸借対照表(連結)

貸借対照表サマリー

単位: 百万円

	16年12月末	17年6月末	対16年12月末 増減額
(資産の部)			
流動資産合計	43,558	39,747	▲ 3,811
現金及び預金	18,415	21,439	3,023
受取手形及び売掛金	7,565	4,883	▲ 2,681
商品及び製品	16,045	12,306	▲ 3,739
その他流動資産	1,532	1,118	▲ 414
固定資産合計	37,206	33,704	▲ 3,502
有形固定資産	15,572	15,468	▲ 103
無形固定資産	1,866	1,715	▲ 151
投資その他の資産	19,767	16,520	▲ 3,246
資産合計	80,764	73,451	▲ 7,313

	16年12月末	17年6月末	対16年12月末 増減額
(負債の部)			
流動負債合計	16,940	13,349	▲ 3,591
支払手形及び買掛金	9,258	7,101	▲ 2,156
短期借入金	1,400	2,000	600
その他流動負債	6,282	4,248	▲ 2,034
固定負債合計	14,272	12,828	▲ 1,443
長期借入金	7,800	7,000	▲ 800
その他固定負債	6,472	5,828	▲ 643
負債合計	31,213	26,178	▲ 5,034
(純資産の部)			
純資産合計	49,551	47,272	▲ 2,278
負債純資産合計	80,764	73,451	▲ 7,313
* 長短借入金合計	9,200	9,000	▲ 200
* 自己資本比率	61.4%	64.4%	3.0%

トピックス

- 現金及び預金は投資有価証券を売却したこと等により、16年12月末より30億2千3百万円増加しました。
- 商品及び製品については計画通りに削減し、37億3千9百万円の減少となりました(前年6月末対比では47億2千万円の減少(▲28%))。
- 投資その他の資産は、投資有価証券を9銘柄売却したこと等により、32億4千6百万円減少しました。
- 支払手形及び買掛金は仕入の調整により、21億5千6百万円減少しました。
- 自己資本比率は64.4%となりました。

Ⅱ. 2017年下期 事業計画(単体)

Ⅱ. 2017年下期 事業計画(単体)

(1) 販路別前売計画

TIMELESS WORK.

SANYO

販路別前売

単位: 百万円

	上期						下期						年間(通期)								
	16年実績	17年計画	17年実績	前年比	対前年増減額	計画比	対計画増減額	16年実績	17年計画	17年修正	前年比	対前年増減額	計画比	対計画増減額	16年実績	17年計画	17年修正	前年比	対前年増減額	計画比	対計画増減額
百貨店 紳士服	15,330	14,100	13,540	88%	▲ 1,790	96%	▲ 560	15,310	13,700	13,060	85%	▲ 2,250	95%	▲ 640	30,640	27,800	26,600	87%	▲ 4,040	96%	▲ 1,200
百貨店 婦人服	19,760	18,300	18,610	94%	▲ 1,150	102%	310	18,780	16,900	17,190	92%	▲ 1,590	102%	290	38,540	35,200	35,800	93%	▲ 2,740	102%	600
百貨店計	35,090	32,400	32,150	92%	▲ 2,940	99%	▲ 250	34,090	30,600	30,250	89%	▲ 3,840	99%	▲ 350	69,180	63,000	62,400	90%	▲ 6,780	99%	▲ 600
FB・路面店	4,510	4,200	3,830	85%	▲ 680	91%	▲ 370	4,150	4,500	4,170	100%	20	93%	▲ 330	8,660	8,700	8,000	92%	▲ 660	92%	▲ 700
EC・通販	2,230	2,700	2,840	127%	610	105%	140	2,320	2,900	2,860	123%	540	99%	▲ 40	4,550	5,600	5,700	125%	1,150	102%	100
アウトレット	2,130	1,200	1,600	75%	▲ 530	133%	400	1,920	1,500	1,800	94%	▲ 120	120%	300	4,050	2,700	3,400	84%	▲ 650	126%	700
百貨店以外計	8,870	8,100	8,260	93%	▲ 610	102%	160	8,390	8,900	8,840	105%	450	99%	▲ 60	17,260	17,000	17,100	99%	▲ 160	101%	100
合計	43,960	40,500	40,420	92%	▲ 3,540	100%	▲ 80	42,480	39,500	39,080	92%	▲ 3,400	99%	▲ 420	86,440	80,000	79,500	92%	▲ 6,940	99%	▲ 500

(注) 年間の17年修正は上期実績と下期修正の合算値

トピックス

- 百貨店販路: 百貨店マーケットが引き続き厳しい推移をすることが予想されることに加え、夏物マークダウンの開始が6月に前倒しになったこと等により下期は当初計画からやや減少し、年間(通期)では624億円を計画しています。
- EC・通販: 上期は計画を達成しました(前年比127%、計画比105%)。下期も引き続き潜在成長力のある販路として捉え、自社・他社ECサイト共にEC専用商材を開発するなどし、積極的に事業を拡大します。
- アウトレット: 上期は計画を達成(計画比133%)した為、年間(通期)でも34億円に上方修正します。

Ⅱ. 2017年下期 事業計画(単体)

(2) 基幹ブランド前売計画

基幹ブランド前売

単位: 百万円

ブランド事業	上期							下期							年間(通期)						
	16年実績	17年計画	17年実績	前年比	対前年増減額	計画比	対計画増減額	16年実績	17年計画	17年修正	前年比	対前年増減額	計画比	対計画増減額	16年実績	17年計画	17年修正	前年比	対前年増減額	計画比	対計画増減額
マッキントッシュ事業	9,480	10,200	10,430	110%	950	102%	230	10,090	10,300	10,370	103%	280	101%	70	19,570	20,500	20,800	106%	1,230	101%	300
マッキントッシュ ロンドン	5,450	6,080	6,300	116%	850	104%	220	6,200	6,320	6,300	102%	100	100%	▲20	11,650	12,400	12,600	108%	950	102%	200
マッキントッシュ フィロソフィー	4,030	4,120	4,130	102%	100	100%	10	3,890	3,980	4,070	105%	180	102%	90	7,920	8,100	8,200	104%	280	101%	100
ポール・スチュアート事業	4,600	3,700	3,690	80%	▲910	100%	▲10	4,180	3,300	3,310	79%	▲870	100%	10	8,780	7,000	7,000	80%	▲1,780	100%	0
エポカ事業	4,050	3,950	3,820	94%	▲230	97%	▲130	3,650	3,750	3,780	104%	130	101%	30	7,700	7,700	7,600	99%	▲100	99%	▲100
アマカ事業	1,740	1,650	1,540	89%	▲200	93%	▲110	1,530	1,350	1,360	89%	▲170	101%	10	3,270	3,000	2,900	89%	▲370	97%	▲100
エヴェックス事業	2,580	2,400	2,410	93%	▲170	100%	10	2,300	2,300	2,290	100%	▲10	100%	▲10	4,880	4,700	4,700	96%	▲180	100%	0
トゥービーシック事業	2,080	1,950	1,940	93%	▲140	99%	▲10	1,870	1,850	1,760	94%	▲110	95%	▲90	3,950	3,800	3,700	94%	▲250	97%	▲100
ラプレス事業	1,470	1,650	1,580	107%	110	96%	▲70	1,530	1,650	1,720	112%	190	104%	70	3,000	3,300	3,300	110%	300	100%	0
7事業合計	26,000	25,500	25,410	98%	▲590	100%	▲90	25,150	24,500	24,590	98%	▲560	100%	90	51,150	50,000	50,000	98%	▲1,150	100%	0

(注) 年間の17年修正は上期実績と下期修正の合算値

トピックス

- ・ 上期は基幹ブランドである7事業合計ではほぼ計画通りに推移しました。年間(通期)においても当初計画通り500億円を見込んでいます。
- ・ ポール・スチュアート事業は、撤退したポール・スチュアート スポーツを除く上期の既存事業対比では前年比92%でした。
- ・ エポカ事業は、休止したピアンカ・エポカを除く上期の既存事業対比では前年比102%でした。
- ・ アマカ事業は、上期の既存事業対比では前年比95%でした。

II. 2017年下期 事業計画(単体)

(3) 販路別売場数計画

TIMELESS WORK.

SANYO

販路別売場数(ドア数)推移 (国内での前売計上売場のみ)

単位: 売場

	2015年	2016年				2017年						
	12月末	6月末	12月末	前年比	対前年 増減数	6月末 (実績)	前年 6月末比	対前年 6月末 増減数	12月末 (予想)	前年 12月末比	対前年 12月末 増減数	対2015年 12月末 増減数
百貨店	1,388	1,364	1,282	92%	▲ 106	1,134	83%	▲ 230	1,025	80%	▲ 257	▲ 363
百貨店以外	90	82	73	81%	▲ 17	71	87%	▲ 11	65	89%	▲ 8	▲ 25
合計	1,478	1,446	1,355	92%	▲ 123	1,205	83%	▲ 241	1,090	80%	▲ 265	▲ 388

(注) 季節性の強い「コート平場」を除く

トピックス

- 2017年上期は、2016年12月末から中止ブランド▲120売場、不採算売場▲42売場、新規出店12売場となり、6月末時点では1,205売場となりました。

2017年2月末にて、4ブランド5ライン(ポール・スチュアート スポーツ、バンベール、バンベール(Lサイズ)、アレグリ、フランコ・プリンツィバリー)を撤退。

- 2017年下期については、2017年6月末から中止ブランド▲約50売場、不採算売場▲約65売場、新規出店数売場を計画しており、12月末時点では1,090売場となる見込みです。

2017年8月末をもって、2ブランド(コトゥー、イルファーロ)を撤退予定。

Ⅲ. 2017年下期 CSR活動

think. SANYO

「think. sanyo」とは、<真・善・美>の社是の下、当社がCSR基本方針として掲げる「CSRの理念」を表す言葉として生み出されました。

社員による和綿栽培

当社では2013年から、栃木県の「渡良瀬エコビレッジ」にて和綿の栽培を実施しています。

渡良瀬エコビレッジでの活動は、衣・食・住を通して環境に負担を与えない持続可能な循環型社会の「やまずめぐる暮らし」を目指してスタートしました。日本古来からある循環型の生活の知恵を、和綿栽培を通して体験します。この活動に社員が参加することにより、企業として環境への理解を深める試みとなっています。

2017年は5月に種まき、7月に間引きと草取りを行いました。10月中旬には収穫を予定しています。



グリーンダウン(再生羽毛)

当社は、2015年4月に設立されたダウン(羽毛)のリサイクルを促進する一般社団法人Green Down Projectが運営する「Green Down Project(グリーンダウンプロジェクト)」に参加し、「グリーンダウン(再生羽毛)」を用いた製品を販売しています。

三陽銀座タワー6階フロアでは、一般のお客様から不要になった羽毛製品の回収を行っており、社内においては支店を含む全社に「ダウン回収ボックス」を設け、社員からも回収をしています。また2016年からは新宿リサイクル活動センターとエコギャラリー新宿でも回収を進めています。



服育

服育授業

服を大切に長く着る心を育てる「服育」の一環として、2014年から東京都内の学校で「服育授業」をスタートし、2014年は2校、2015年は5校、2016年は3校で授業を実施しました。

これは当社のデザイナーやパタンナーが学校の家庭科の授業に参画し、デザイナーやパタンナーの職業(キャリア学習)、服が出来上がるまでのプロセスを説明しながら、子どもたちと一緒にバッグやエプロンを製作するというものです。

2017年は1月に1校、7月に3校で服育授業を実施しました。下期はさらに1校での実施を予定しています。



復興支援活動

プロジェクトFUKUSHIMA! の支援

福島県にある当社のスーツ工場・サンヨーインダストリーは、設立から30年以上に渡って地域の人々に支えられており、当社は復興支援活動の一環として、2014年から「プロジェクトFUKUSHIMA!」を支援しています。

プロジェクトFUKUSHIMA! の活動でも有名な、毎年8月15日に開催される盆踊りイベント・フェスティバルFUKUSHIMA! で使われるノボリ旗の縫製に、2017年もサンヨーインダストリーと当社が協力しています。



<本資料に関する問い合わせ先>

経営統轄本部 経営企画部長

伊藤 譲

TEL 03-6380-5421